



介護老人保健施設
ぼたん園
施設長(看護師)
橋口 玲子

第
105
回

メモント・モリ
(死を思え)



数年前、映画監督の信友直子
さんとお話する機会がありま
した。アルツハイマー型認知症

の母と耳の遠い父。老老介護の
両親の姿を捉えた「ぼけますか
ら、よろしくお願いします」と
いう映画の試写会後、「介護は、
親が命がけでする最後の子育
て」という信友監督の言葉が、
私の心に強く響きました。

当時、私は要介護5の父を自
宅で介護しており、身近で老い
ていく父の姿を映画に重ね合
わせ、やがては私自身もたどる
であろう道に思いをさせてい
たからです。

私は40歳になった時、看護師
として3交代勤務を続けながら
夜間大学で福祉を学びました。
修士、博士過程へと進み、ユング
心理学、日本のみとりの歴史な
どを学び、また看護師として多
くの死に立ち会った経験から、
現在は大学で死生観を育成する
ための講義も担当しています。

これから日本は、多死社会を
迎えていきます。どこで、どの

ような最期を迎えたいのか。
Quality of death (QOD) 死
の質が問われています。

施設でもみとりの事例が多く
なってきました。老いや死を自
分のこととして真剣に考えるこ
と。また、見送るときにどれだけ
ご本人の思いを受け止められる
かが大切だと考えます。

「メモント・モリ」とは、ラテン
語で「死を思え」。限られた生を
意識して生きることが、生をい
きいきとしたものにするとい
う意味です。

私が自宅の庭で育てている
ブルーベリーの花言葉は「実り
ある人生」。必ず迎えるその最
終章が自分らしくあるために、
一人一人が健康な時から考え、
家族で話し合うことをお勧め
します。

